

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

今週の注目材料 = 前回は約40年ぶりの高水準に

2022年2月7日

米国の利上げ期待が強まる中、その要因となっている物価動向への注目が集まっています。米国のインフレーターゲットはPCE(個人消費支出)デフレーターの前年比ですが、発表がやや遅いため、同系統の指標でPCEよりも2週間ほど発表の早い消費者物価指数に注目が集まる傾向があります。10日に最新1月分の消費者物価指数が発表されます。

前回12月分の消費者物価指数は前年比+7.0%と予想通りとはいえ7%の大台に乗せてきました。1982年6月以来、39年半ぶりという高水準です。変動の大きい食品とエネルギーを除いたコアは+5.5%。こちらは市場予想の+5.4%を超え、1991年以来の高水準となっています。前月比はそれぞれ+0.5%、+0.6%となっています。

上昇の要因となったのが、エネルギー価格の上昇と中古車を中心とした自動車価格の上昇です。12月のガソリン価格は11月と比べて低下(前月比-0.5%)したものの、前年比で見ると+49.6%となっており、全体を大きく押し上げました。需給バランスのひっ迫感から原油価格の上昇が続いており、ガソリン価格などにもその影響が大きく出ています。中古車及びトラック価格は前年比+37.3%とこちらも相当高い伸びに。新車価格も+11.8%となっており、自動車の価格上昇が目立ちます。サプライチェーン問題での半導体不足などから車の供給が追いついておらず、その影響が新車価格および中古車価格に出ているとみられます。

車社会である米国でのガソリン価格と自動車価格の大幅上昇は、前年比+6.3%と上昇傾向が続く食品価格と合わせ、市民生活を大きく圧迫しています。中央銀行としてもこうした状況への対処が求められるところで、積極的な利上げに向けた動きにつながっています。

その他項目を見ると、CPIの約1/3を占める重要項目である住居関連費が+4.1%と、全体よりは低いものの力強い伸びに。衣料費が5.8%と全般に強めの推移が見られます。

1月の消費者物価指数は前年比+7.3%、コア前年比+5.9%ともう一段の伸びが見込まれています。全体に高いとはいえ11月よりは下げたガソリン価格は、1月に入って12月よりも小幅上昇(EIA調査による全米全種平均で1ガロン当たり3.406ドルから3.413ドルに)。エネルギー価格の上昇が全体を押し上げる流れは継続しているとみられます。

半導体不足で1月の日本の自動車メーカーによる米国での販売台数が大手4社すべてで落ち込み、全体で前年同月比-10.0%となるなど、米国での自動車生産は依然厳しい環境にあります。前回同様中古車・新車価格は、ともに上昇していると見込まれ、食品・エネルギーを除くコアでも、自動車価格の上昇が押し上げる形で物価上昇が続いているとみられます。

3月の米FOMCでの利上げ実施はほぼ確定的。FOMCメンバーによる発言から次回会合での0.5%の利上げは見送られるという見通しが広がっていますが、市場予想前後の物価上昇が見られると、今後の追加利上げが積極的になるという期待につながります。

先月初めぐらいまで年内3回という見通しが主流であった米国の利上げは、その後年内

4回見通しが強まり、さらにここに来て5回以上の利上げを見込む動きが中心シナリオとなっています。通貨先物市場動向からみた利上げ見通しを示すCMEFedWatchではどこかのタイミングで連続利上げが必要となる年内5回の利上げがもっとも多い見通しに。5回以上という見方では68.7%と2/3以上の割合で見込まれています。なお、約10%が3月以降すべてのFOMCでの利上げを見込むという状況になっています。3月の利上げ見通しは100%となっており、5月の連続利上げは85%が、6月までの3連続利上げは78%が見込むなど、積極的な利上げへの期待が強まっています。

物価上昇の加速がこうした積極利上げ見通しを支えています。市場予想を超える物価上昇が見られると、期待がさらに強まる可能性があるだけに、今回の消費者物価指数は相当な注目を集めています。

山岡和雅 | bu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。